

神学校週間によせて

2022年6月26日 [日] ~ 7月3日 [日]

伝道者養成を教会の事柄として



西島啓喜
これからの伝道者養成検討委員会
帯広バプテスト・キリスト教会会員

1 新「伝道者養成の基本理念」

「これからの伝道者養成検討委員会」では2014年に策定された「基本理念」の改定作業を進めています。これまでは、①西南をメイン、東京と九州の両神学校は補完的と位置づけし、②信徒の献身を重視しつつも「専門職としての伝道者」養成に力点が置かれてきたように思います。しかし現在、無牧師教会の増加、信徒の高齢化、会員数の減少が顕著になっていきます。新理念ではこうしたピンチをチャンスに変える意識への変革（本来のバプテスト＝信徒の中から牧師を立てる）、また三神学校が連携を深め、信徒リーダー↓専門職伝道者↓神学教育者養成となめらかに続くことを期待しています。また牧師のあり方も発想の柔軟さ（兼牧、兼職など）が必要です。

2 神学校献金（神学生奨学金献金）

新理念の実現に向け、神学校献金の用いられた方の新たな可能性を壮年会連合と協議しています。一方で富士栄迪さん（壮年会連合前監査）によると2018年をピークに自己資本（奨学金残高+預金）が減少しているとのこと（図）。卒業生減少に伴う返還額減少と神学校献金が減少しているためです。一見すると預金が増えていたため献金が満たされていないように感じますが、これは健全な増加ではありません。多くの神学生に貸与するともに、返還額（卒業生数）も増加するのが望ましい姿です。コロナの影響もあるでしょうが諸教会に誤解がないか懸念されます。伝道者養成を教会の事柄と受け止め、祈りつつ献げる期間としたいと思えます。



（卒業生数）も増加するのが望ましい姿です。コロナの影響もあるでしょうが諸教会に誤解がないか懸念されます。伝道者養成を教会の事柄と受け止め、祈りつつ献げる期間としたいと思えます。

◎神学生の証し◎

神さまが備えてくださる道



武宮陽子
九州バプテスト神学校
専攻科2年
(大分キリスト教会推薦)

主のみ名を賛美いたします。いつも神学校の働きのために、お祈りとご支援、ご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

教会の執事・役員の働きに関わらせていただく中で実践的な学びの必要性を感じ、2015年に聴講生として神学校の門をくぐりました。先生方や受講生の方々の熱いお姿に励まされ、体系的に神学を学びたいとの思いが次第に与えられるようになりました。2018年に本科コース入学が許され、聖書のもつ素晴らしい世界を教えていただく恵みに与り感謝のほかありません。同時にそのことは信仰を問ひ直されていく学びでもあります。

専攻科1年次では、所属・研修教会の大分教会で、数回、主日礼拝宣教をさせて頂いていただきました。主にある兄弟の愛と忍耐に感謝しキリストの体である教会が栄えることを祈りに覚えています。現在、執事として、また社会で仕事をしている神学生です。パソコン、スマートフォン、DVDで受講が可能な上に今年度からZOOMで教科目をリアルタイムで学ぶことが可能になりました。未熟な信仰者の遅々とした歩みに関わり寄り添い続けてくださっている神さまと神学校に心から感謝しています。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛してくださった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハ3:16)

圧倒的な無条件の赦しと憐れみを受け入れることに希望があります。神さまの愛への感謝の応答として、神さまと隣人に仕える歩みに導かれてまいると願っています。



◎九州バプテスト神学校 授業風景 (新約釈義)

主に開かれ、主に聞く



長尾基詩
西南学院大学神学部
神学科神学コース2年
(府中キリスト教会推薦)

神学部に入學して2年目になる。入學した日のことは昨日のことのようにも思われるが、今日までの日がここまで濃密になったことに思いを馳せる。この歩みに主が伴ってくださったこと、全国諸教会の皆さまの熱き祈りがあったこと、本当に感謝したい。

神学校としての西南学院大学の特徴は何かと問われれば、それは開かれ続ける学びにあるだろう。西南では、常に神学コース生と人文コース生とが一緒に机を突き合わせて学ぶ。人文生には聖書を開いたことのない学生も多い。その中で神学を学ぶということは、議論の交流をする中で自分がいかに閉じられた教会の常識の中だけで生きていたのかを思い知らされる。神学的な知識、自分の教会観を持つていないと言って、彼らを見下し、無視することは簡単にできるだろう。しかし、牧師として教会に仕える、人に仕える姿勢とはそのようなものなのだろうか。主に開かれ続け、彼らに開かれ続け、主に聞き、彼らに聞く。神学するものとして、あなたはどうか生きるのかと主から問われる日々である。

寮生活では、朝に祈りの時間を持つ。『バプテスト』誌の「協力伝道カレンダー」を用いて、聖書を読み、1日1つ、全国諸教会の中の1つの教会を覚え、祈る。その時間はひと時の休息となり、学びに向かっていく活力となる。これからも謙虚に、誠実に神の言葉と向き合っていくつもりだ。祈りに覚えられる者として、神の働きに召された者として。



◎西南学院大学 実践神学概論授業風景

時代に対応した教役者



小平公憲
東京バプテスト神学校
神学専攻科
(横浜ニューライフ
バプテスト教会推薦)

全国諸教会の祈りとお支えに感謝をいたします。本科生としてリモートによる3年間の学びを終え、このたび神学専攻科に入學しました。熱い思いを抱いて入學した本科でしたが、待ち受けていたのは、水を浴びせられるような授業でした。私は聖書無謬論という無知に陥り、「自分は何もわかっていなかった」ということに気づかされました。

私たちは今、前代未聞の情報革命に直面しています。現代人が1日に触れる情報量は、100年前の人間の一生分の情報量に匹敵します。膨大な情報量の中、フェイクも飛び交い、今や小学生でも「信じる者はダメされる」と言っています。その変化のスピードは凄まじく、過去の経験はまったく通用しない、予測不能な社会が到来しています。

多くの教会でSNSを用いた礼拝や情報発信が当たり前になり、自分の教会でも、教会に來られない方のために、LINEウォレットによる献金を受け付けはじまりました。加速する変化に対し、自己改革を怠れば、あつという間に時代に取り残されていきます。とはいっても、人間の本性は大して変わっていないのではないのでしょうか。聖書という古典の中には、人間の普遍的な原理が含まれていることも事実です。時代に合った教役者になるためには、普遍的な原理を意識し、思考停止に陥ることのないように学びを続け、自分自身の改革を怠らないことだと考えています。



◎東京バプテスト神学校 ヘブル語中級授業風景

2022年度神学校週間奨励

「今こそバプテストのビジョンを新たに」

東京バプテスト神学校 校長 坂元幸子



東京バプテスト神学校では教役者（牧師・主事）の召命を受けた専攻科生を「神学生」と位置づけ奨学金受給の対象者と定めています。神学生たちは奨学金によって財政的な助けをいただくと共に、全国壮年会連合を通して全国の諸教会に祈られていることを具体的に実感するのです。現在全国には60名を超える「東バプ」出身の教役者が主の教会に仕えています。連盟全体の教役者の約三分の一にあたります。西南学院神学部、九州バプテスト神学校と共に「東バプ」が日本バプテスト連盟の伝道者養成に仕える神学校として皆さまに支えられていることを心から感謝いたします。

今年の1月、第67回連盟定期総会を経て機構改革がいよいよ動き出しました。「今、共にキリストを証するために～新たな『自立と協力』～各個教会・地域が主体となる協力伝道」が改革の主題です。「東バプ」はまさに諸教会と地域が主体の協力伝道の中で生み出されてきました。60年前の1962年、東京連合によって信徒伝道者養成のために「東京バプテスト福音宣教学院」が設立

され、その後教会の多様なミニストリーを担うビジョンのもとに「神学科・教会教育科・教会音楽科」の3科が設置されました。1986年には北関東・神奈川の二連合が加わって現在の「三連立」の形が整いました。このように「信徒奉仕者養成」と「教役者養成」が相互につながる教会形成は実にバプテストらしいことです。現在改定中の「伝道者養成の基本理念」にもバプテストが本質的な意味での「信徒の教会」であることが改めて確認されています。

「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。」（使徒2：17）ペンテコステの日、ペトロはイエス・キリストの教会のビジョンを語りました。多様なすべての人びとがジェンダーや年代などの違いを超えて共につながり生かされる教会のビジョン、それこそが私たちバプテストが求める信仰者共同体の姿であり、神学教育の目的であることを今、新たに受け取り直したいと祈ります。

「献金の使途拡大を可能に！」（2022年度神学校週間にあたって）

全国壮年会連合副会長（神学校献金推進担当） 豊永義典（川崎バプテスト教会）

川崎バプテスト教会では、昨年5月約2年間の無牧師期間を経て第7代目の牧師を招聘することが出来、恵まれた一年を過ごすことが出来ました。コロナの感染拡大が繰り返すなか、牧師が教会員の一人ひとりとお会いするまでにはかなりの時間を要しましたし、まだ安心してみんなが会堂に集まることは出来ていませんが、礼拝や祈禱会、教会学校にZOOMを活用することで、豊かな交わりと学びが拡大してきました。牧師と教会員が一緒になって教会形成に向き合うことの実感した一年でもありました。

さて2021年度も242教会・伝道所から1,588万余円の神学校献金を献げて頂きましたことに、心から厚く御礼申し上げます。

このところ西南学院大学神学部への入学者が減少し、必要な奨学金額も小さくなっていること、コロナによって壮年会の活動が制限されていることも相俟って、献金額は減少してきています。しかしこれからは神学校献金を「伝道者養成」のなかの神学生を支える事に限定せず、献身から学び、牧師としての働きまでに関わる様々な働きにも使えるようにしたい、と連盟理事会は希望しており、役員会でも検討を始めました。壮年会連合が奨学金制度の運営を委託されたこの20年間、皆さんの献げられた献金によって、制度は健全な運営を続けてくることが出来ましたし、ある程度の余裕があることも最近の確認で判りました。

しかし実際に献金の使途を拡大し、今後とも安定して制度を運営していくためには、皆さんの献金による協力が必要です。昨年度から献金目標額を2500万円に下げっていますが、早期に2000万円台に回復させるとともに、この目標額を達成したいと願っています。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移

年度	献金額
2012年度	2,228万円
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円
2017年度	2,299万円
2018年度	1,986万円
2019年度	1,944万円
2020年度	1,603万円
2021年度	1,588万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）

【西南学院大学神学部】 7名 <2022年度奨学金貸与者数：(6)名>	
博士前期	原田 仰(1年・はらだ こう・平尾)、吉田 睿 濫(1年・よしだ いえらむ・松本福音村)
学部神学コース	奥田 悟(3年・おくだ さとる・東京北)、長尾 基 詩(2年・ながお きし・府中)、李 信 範(1年・い しんぼむ・平岸)
特別研修生	石原 誠(いしはら まこと・常盤台)、湯川 洋 久(ゆかわ ひろひさ・福岡城西)

【東京バプテスト神学校】 8名 <2022年度奨学金支給予定者数：4名(第1回連盟理事会にて決定)>	
神学専攻科	井馬佐紀子(いま さきこ・仙川)、小平公憲(こだいら きみのり・横浜ニューライフ)、澤田猛(さわだ だけし・横浜JOY)、根塚幸雄(ねづか ゆきお・横須賀長沢)、小川 紀良(おがわ きよし・逗子第一)、柏 雅之(かしわぎ まさゆき・経堂)、舩田 栄一(ますだ えいいち・洋光台)
教会音楽専攻科	末永 美奈子(すえなが みなこ・同盟横浜南キリスト教会)

※休学(神学専攻科):岩瀬 ミチ(いわせ みち・調布)

【九州バプテスト神学校】 9名 <2022年度奨学金支給予定者数：2名(第1回連盟理事会にて決定)>	
専攻科	河野 正成(かわの まさなり・キリスト教佐賀新生)、松本 泰博(まつもと やすひろ・天草中央)、武宮 陽子(たけみや ようこ・大分) 西野 修平(にし の しゅうへい・北九州)、諸隈 秀臣(もろく まひでおみ・久留米荒木)、浅川 真(あさかわ まこと・香住ヶ丘)、李 守卿(い すぎよん・長崎)、今里 豪(いまさと つよし・折尾)、甲木 榮(かつき さかえ・自由ヶ丘)

※九州バプテスト神学校では、2020年度から「牧師・主事コース」を「専攻科」へ名称変更しました。

【神学校献金(神学生奨学金献金)について】	
【名称】神学校献金は従来から、西南学院大学神学部(以下西南神学部と略す)で学ぶ神学生(大学院生も含む)の授業料と生活費の一部を支えるため、奨学金という形で用いられてきました。2012年度から連立等の神学校で伝道者となるために学ぶ神学生—東京バプテスト神学校(以下東バプと略す)の専攻科、九州バプテスト神学校(以下九バプと略す)の専攻科、にも用いられることになりました。そこで「神学校献金」の使途を明確にするため、2013年度より「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更いたしました。	らは両神学校の奨学金規程により返還の適否が判定されます。
【内容】西南神学部神学生には、授業料等の費用として1種奨学金を貸与し、生活費補助として2種奨学金を給付しています。このうち1種奨学金については返還の義務があります。東バプと九バプの神学生には、授業料の一部を奨学金として支弁しており、こ	【返還】西南神学部神学生の1種奨学金の返還については、2019年度の総会で返済条件が緩和される形で規程が改定されました。従来は卒業後4年以上伝道の業に従事し、卒業後10年以内に1種奨学金の2割以上返還した場合、その残額の返還は免除されました。2019年度在学学生からは、返済期間を15年に延ばすと同時に、伝道の業への従事期間が2年以上、4年未満の場合でも、返済額は貸与額の3割または5割が免除されることになりました。詳細は壮年会連合のホームページで規程を参照して下さい。
	【献げ方】毎年6月に行われる神学校週間を用いて献金される教会・伝道所が多いと思いますが、年間を通して神学校献金を献げているところも増えています。全国壮年会連合は本活動を積極的に推進していますので、壮年の皆さまにはぜひ教会の皆さんに働きかけていただき、教会全体の業となっていくことを期待しています。